

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300109		
法人名	社会福祉法人 横手福寿会		
事業所名	グループホームひなたの家		
所在地	横手市増田町吉野字梨木塚95-2		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年10月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなたの家の理念「自由で穏やかな暮らし」「笑顔あふれるその人らしい暮らし」「人と人とのつながりを絶やさない暮らし」の基づいて、入居者様一人一人の立場に立ち、安心して居心地よく過ごしていただけるよ支援している。  
 ご本人の意向に沿って、できることできそうなことを一緒に行いながら、できる力を引き出しつつ生活に活かせるように努めている。  
 職員は、入居者様一人一人の性格や気分を理解し、言葉遣いや態度に注意し、親しみを持ちながら丁寧な対応に努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者個々の真の希望をいかにして把握するかを追求しており、機会を設けてはあちこちに出かけていることがこのホームの特徴である。意向調査と題した表を採用し、「入居者個々の根底にある希望がまだまだあるはずだ!」・・・と、話す管理者やスタッフの探求心には脱帽する。理念の一つひとつの言葉は具体的に日常の支援の何を指すのかをスタッフが自分なりに明快に熱く語る。「ひなたの家便り」は、各家族向けに、7ページにも及ぶ活動や外出での笑顔の数々の写真とスタッフ手書きの状況報告等で構成され、家族とホームの信頼関係の構築に繋がっている。専門性が高く、向上心を秘めていることが窺えるホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>月一回の会議の場で確認し合い、日常のケアに活かすように努めている。</p>	<p>分かりやすく覚えやすいことを念頭にBS法を活用し作成した理念は、自由、穏やか、笑顔、その人らしい、人とのつながりの言葉から構成され、玄関や事務室、ホームのパンフレットに掲げられている。検討した結果かつての「寄り添った暮らし」を「その人らしい暮らし」に変更した経緯を説明していただいた。毎月開催されるホームの会議で理念を読み合わせたり、具体的な支援に照らし合わせたりすることで、全スタッフが日頃理念を意識し業務に反映されるよう取り組んでいる。理念の一つひとつの言葉は具体的に日常の支援の何を指すのかをスタッフが自分なりに明快に熱く語れる体制が構築されていることには驚かされる。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的にはとはいかないが、地域の小学校や保育園の学習発表会や運動会等を見学したり、地元の商店街へ出かけるなど交流に努めている。</p>	<p>ショッピングセンター、道の駅、レストラン、真人公園、花見、ホームセンター、足湯、梨木公園、親類宅、小学校運動会、墓参り、蕎麦屋、ふるさと村、あやめ見学、コンサート、カラオケ店、七夕絵灯籠見物等々、機会を設けては地域に出向いており、地域の一員として認識されるよう努めていることが、詳細な記録から確認できた。3か月毎に発行する広報「ひなたぼっこ」は、家族の他、地域の馴染みの店や、学校等へも配布され、ホームが地域に認知される取り組みを実施している。</p>	<p>人里離れた位置に立地していることから、近隣に出かけ住民と接する機会に恵まれないため、隣接するデイサービスやグループホームへの訪問を、今後も継続するよう期待します。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している</p>	<p>広報紙を三カ月に一回発行し、地域に配布し認知症に関する知識や、ひなたの家の生活や取組を紹介するなど認知症への理解が深まるように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひなたの家のサービスの状況や取り組みを詳細に報告し、意見や要望をいただくようにしている。	入居者、地域住民1名、市増田地域局職員が参加しており、民生委員に関しては、隣接するグループホームひだまりの家の運営推進委員であり、2つのホームの兼任は難しい現状にあるとのこと。会議には実に詳細な活動報告がなされていることが会議記録から窺える。意向・満足度アンケートの結果についても、運営推進会議の議題とし検討がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターから介護相談員が訪問、入居者様や職員と会話し、日頃の状況を確認していただいている。	市南部地域包括支援センターの介護相談員2名が月に2回訪問し、入居者やスタッフとの面談から入居者個々のニーズ等を聞き取る活動を実施している。市とホームの協力関係の構築に寄与している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、所在確認を常に行うようにしている。勉強会で身体拘束マニュアルについて取り上げ、理解を深めている。	開設以来対象者はいない。玄関に鈴を装着したり、転倒の危険性の高い入居者のベッド脇にセンサーを採用し、利用者毎に音色を変えることで個人を識別できるよう工夫している。身体拘束廃止に向けた詳細なマニュアルが整備され、年2回は、当グループホームで身体拘束廃止に向けた研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のマニュアルについて勉強会で取り上げ、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について勉強会を開催し、理解が深まるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が実施し、理解していただけるように分かりやすく丁寧な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様への意向調査を行い、希望、意向を伺う機会を作り、対応している。すぐにできないことは計画を立てて実現に努めている。	全23項目に及ぶ「意向・満足度アンケート」を実施しており、結果分析に基づき、まずはスタッフ間で共有・検討し、運営推進会議の議題として取り上げられている。ホームから家族に向けて発行される「ひなたの家便り」は、各家族向けに、7ページにも及ぶ活動や外出での笑顔の数々の写真とスタッフ手書きの状況報告等で構成され、家族とホームの信頼関係の構築に一役買っていると思われた。「ひなたぼっこ」と題した広報の前面は、タクティールケアやユマニチュードといった認知症ケアの手法が紹介され、裏面は、ホームでの入居者活動を紹介しており、家族からも好評である。認知症ケアの手法を啓蒙することも、ホームの大事な役割であるとの信念を管理者は語る。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回開催するひなたの家会議で意見や提案を話す場を設け、反映する機会を作っている。	毎月開催されるひなたの家会議は、事前に全スタッフに議題を募集することで、スタッフの意見や提案を反映させるよう工夫している。スタッフ個々の生活事情を考慮した勤務体制が法人として確立されており、働きやすい環境である。スタッフからのヒヤリングから、専門性が高く、向上心を秘めていることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規定が整備され、働きやすい配慮がされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加できる機会を作り、スキルアップが図れるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手市グループホーム情報交換会の研修会や相互訪問などの活動に常に参加し、サービスの向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して利用できるよう話しやすい雰囲気作りを行い、コミュニケーションを多くとるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と居室担当が中心となり、希望を伺い、それに沿えるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が分かること、できることを見極め、入居者様より教わる機会を生活の中で設けている。お礼とともに感謝の意を伝え、自尊心が高まるような関わり方を行うよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて日頃の様子を伝え、写真を多く添付し近況報告している。受診付添、行事への参加を可能な限りお願いしご家族と共に支える支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が会いたい人、行きたい場所に行けるよう支援している。ご要望がない方にはご自宅付近の商店街などに買い物に行くなどの支援を行っている。	入居者からの西馬音内盆踊りの話題をきっかけに、他入居者を連れ立って早速盆踊り会館に向いたり、通りがかりにふと墓参りに立ち寄りたり、ついでに親戚宅に向いたり、とにかく臨機応変に入居者個々の馴染みの人や場所に向こうとするホームの方針が強く感じられる。	道路からの入り口には案内板があるが、ホーム自体にホーム名の表示が無く、初めての訪問者にはわかりづらいので、簡単でいいのでホーム名を表示するよう期待します。
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流しやすい座席、体調や状況に応じて席の配置換え等を行い、過ごしやすい環境を作るように努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもいつでも相談が可能であることをご家族に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向調査を行い、ご要望、ご意向を伺う機会を設け、それに沿った対応に努めている。答えることが困難な方は、本人の立場に立って対応を検討している。	意向調査と題した表を採用し、「入居者個々の根底にある希望がまだまだあるはずだ!」・・・と、話す管理者やスタッフの探求心には脱帽する。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時にご家族から、伺っている。また、ご本人のとの会話の中から把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の日々の記録を行い、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望をもとにカンファレンスを行い、一人一人に合ったケアプランとなるよう努めている	サービス担当者会議に参加できないスタッフは前もって以前の介護計画に記入することで、全スタッフの意見やアイデアを反映されるよう工夫している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、連絡ノート等に記録し、情報の共有を行うとともにケアプランの見直しに活用している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ敷地内にある事業所との合同行事の開催や近隣のボランティア団体に慰問に来ていただき交流が図れるようにしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医、かかりつけ薬局が可能な限り利用できるように支援している。	全入居者がホーム入居前のかかりつけ医を継続しており、家族が付き添う2名を除き、ホームで付き添い通院している。かかりつけ薬局とは互いに顔の見える関係を構築しており、アドバイスや要求等、気軽に相談できる関係にある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約しており、定期的な訪問だけでなく緊急時には指示を仰ぐ体制が整っており、連携が図れている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に情報提供を行い、定期的に面会にうかがい病院関係者からの情報を収集し、退院後の生活に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行わない方針であることを説明、指針を説明し同意をいただいている。ひなたの家でできる範囲を説明し、理解をいただいている。	看取りは実施しない方針とのことであったが、往診する主治医や訪問看護、家族の事情等が合致すれば、ホームでの看取りも対応する姿勢を確認できた。意向や条件さえ整えば、柔軟に対応しようとするホームの意向を垣間見ることが出来た。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全体の勉強会を通じて知識を深めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、全体の勉強会で学ぶ機会を作っている他、年二回の日中夜間想定避難訓練を実施している。同一敷地内にある事業所と連携を取り、協力体制を築いている。	西側避難用スロープ出口の数メートル先が道路であり、道路と敷地に段差があり、冬期間は落下防止のフェンス一部を道路除雪の関係で、外していた。前回の外部評価結果を踏まえ、避難時の車椅子落下防止のため、出来る限り冬期間のフェンスの取り外しを縮小するよう改善している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関するマニュアルがあり、学習会で学ぶ機会を作っている、「介護の基本の実行」のチェック項目を二ヶ月に一回各自確認している。	スタッフによる自己評価結果より、スタッフから「一人ひとりの尊重とプライバシーの確保」について研鑽したいとの意向が強いことから、項目に沿った自己チェックを試みる取り組みを実施していることが確認できた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で傾聴し、希望や意向を伺い、それができるだけ反映できるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースに沿った対応に努めているが、その日の暮らし方までは支援できていないように思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みを職員が把握し、その人らしくなるように支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の気分や意向に沿って、できる力を活かしながら食事作りを一緒に行っていたり、できるよう支援している。	入居者と共に食材の買い出しに出かけ、カートを押してもらいながら食材を選んでもらうことも度々で、非常に助かるとのこと。帰りにソフトクリームを食べたり、コーヒーを飲んだりするのも楽しみの一つ。そもそも事前の献立は存在しておらず、冷蔵庫の中身を見ながら、さあ何を作ろうかな。皿拭きや盛り付け、きのこほぐし等々、できることをいろいろ手伝ってくれているとのこと。隣接のホームと合同で芋煮会を実施する際は、必ずみそ味と醤油味の両方を準備すること、地域によって芋煮の味付けに関する常識が異なるからだと聞いて納得した。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分摂取量を記録し、確認している。食事摂取量が低下している方には、本人の好むものを代替として提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が入居者様一人一人の口腔ケアの方法を把握し、共通した方法で介助を行い、口腔内の健康に努めている。月に一回歯科衛生士による口腔ケアの指導を受け、口腔内の状態確認を行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、訴えのない方に対しては誘導、声掛けを行いできるだけ失敗のないように支援している。	A4判一枚が9名2日分の排泄チェック表。24時間に分けられ、色分けや記号を用い詳細に個々の排泄のパターンを確認できるよう工夫している。声掛けのタイミングや方法を模索しては、その人なりの排泄の自立に向けた支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、運動等便秘にならないように工夫に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとり一人の状態、希望に応じて入浴していただけるようにしている。また、入浴を好まれない方に対しては、職員を変えたり、声掛けの工夫をし、楽しみながら入浴できるように支援している。	入浴は14:00～17:00で毎日実施しており、最低でも週2回は入浴するよう心掛けている。入りたがらない方へは、体重を測りましょうと声掛けて誘導することもあるが、入浴後は気持ちよさそうにしているとのこと。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、適宜休憩が取れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書をファイルし、すぐに調べられる位置に置いている。薬の変更があった場合は、様子観察を行い、体調の変化に注意している。必要に応じて医師や薬剤師に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあることややりたいことの把握に努め、生活に反映させ、張り合いや喜び、気分転換に繋がるよう支援してる。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居前からの趣味の会に参加できるように支援するなど個別の対応が取れるように努めている。毎日、全員とまではいかないが、可能な限り希望に沿った外出ができるよう支援している。普段行けないような所へは計画を立てて行けるよう努めている。	ショッピングセンター、道の駅、レストラン、真人公園、花見、ホームセンター、足湯、梨木公園、親類宅、小学校運動会、墓参り、蕎麦屋、ふるさと村、あやめ見学、コンサート、カラオケ店、七夕絵灯籠見物等々、機会を設けてはあちこちに出かけていることが自慢できるこのホームの特徴である。	入居者個々が真に出かけたい希望をいかにして把握するかを追求しており、今後とも探求心をもって継続して取り組むよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望に応じて自身で所持して使えるように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて携帯電話を所持され自由に話をされている方もおられる。年末には個人的に年賀状を書きたい方の支援を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロアに植物や装飾品を飾り、家庭的な環境作りを行っている。環境の清潔保持に勤め、清潔で居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	運営推進会議やお茶会に活用されている8畳の和室はまるで高級ホテルの和室を錯覚する。段ボールを敷き詰めることで車椅子のまま入れるよう配慮しているとのこと。春は桜、夏は緑、秋は紅葉の貼り絵を作成し、壁を彩っている。スタッフが自発的に自宅や山から採集した花々がホームに飾られていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や廊下にソファを設置し、一人に慣れる場所を提供している。また、食堂の席はより話がしやすい席順にし、配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との写真を飾ったり、愛用品を持ち込んでいただいたりして過ごしやすい環境作りを行っている。	ベッド、エアコン、タンスが備え付けられている。テレビ、冷蔵庫、本を持ち込んでいる居室はまるで自宅の個室を思わせる程生活感あふれる部屋であった。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく安全に移動することができる造りになっている。また場所の失認のある方へは張り紙で対応している。		